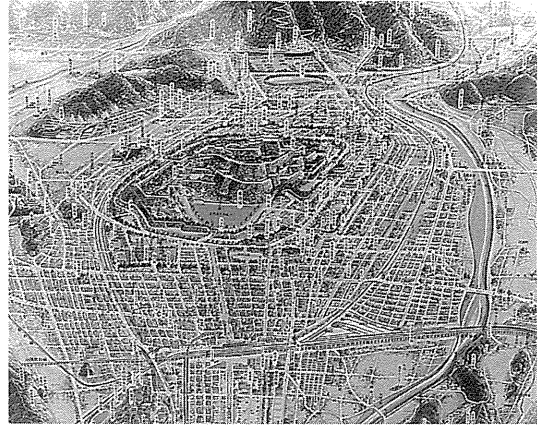




# 『城南地区』をたずねて

城南地区は、姫路城の南方及び南東方に位置し、おおむね白鷺中学校区を指す。この地区は、かつて市川の氾濫原であり、沖積地である。古い河川として青見川（藍染川）、白井川、飾磨川等が古記録に残っている。近年、本町遺跡の発掘調査によって、古代播磨の官衙があったことが明らかになるなど、播磨国の中核地でもあった。兵庫県神社誌によれば16世紀初頭には宿村（二階町付近）、農年村（南畝）等の集落が見える。池田輝政の慶長町割により、姫路城中曲輪のほとんどが武家屋敷、国道2号以南及び総社周辺は町屋となり、町屋の外周に武家屋敷を配し、坂田町などは寺院街となったが、この町割は明治初年の廃藩まで殆んど変わらなかった。山陽道も当地域を通り、本陣・脇本陣・高札場が置かれるなど、城下町の中心的機能を果たしてきた。明治以後もその機能は変わらず、明治22年白銀町に姫路市役所が開庁、山陽鉄道姫路駅、裁判所、警察署、米穀取引所等も置かれた。「城南」の地域名は、明治9年、城南小学校と名づけられたのが公的には初見とされる。大正12年（1923）城巽小学校が分離して創立された。



姫路城下の鳥瞰図（部分） 井沢元晴 画

本町遺跡 奈良時代の建物趾  
昭和56年 発掘調査

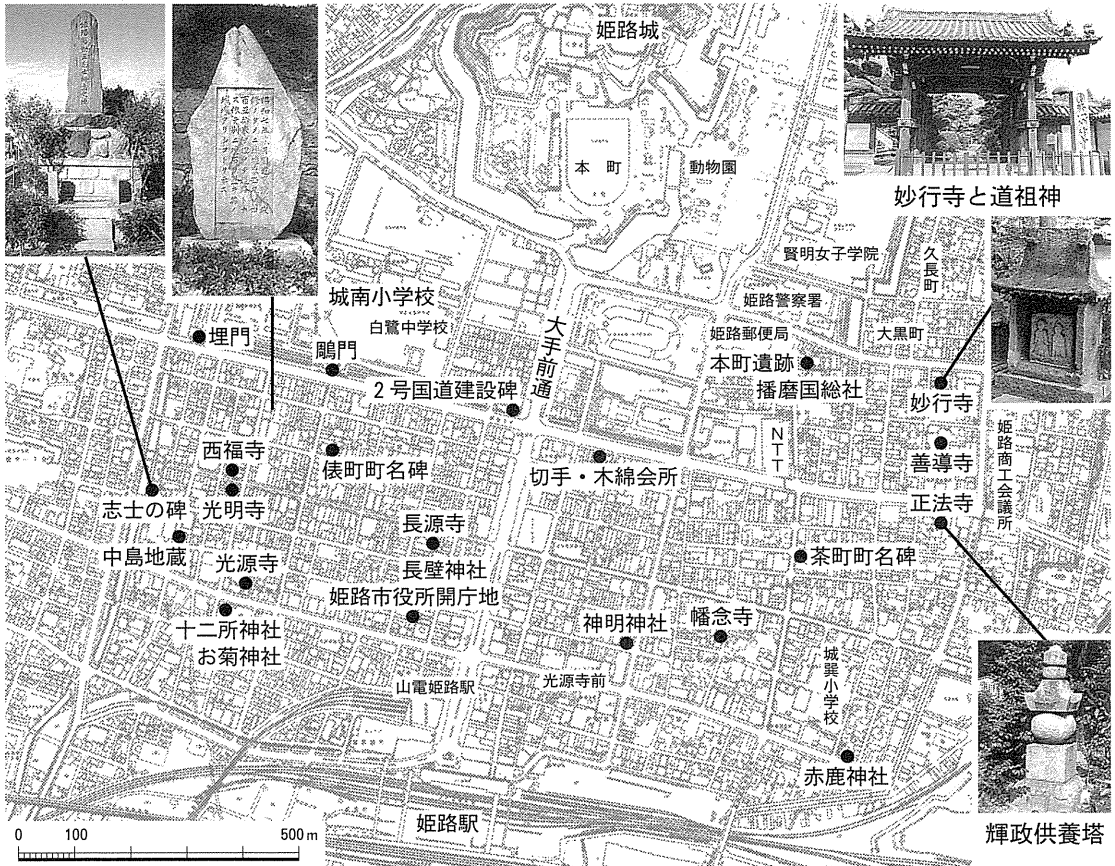
本町遺跡（本町） 姫路郵便局周辺は、広範囲に古瓦が出土していたので、本町遺跡と称されていた。昭和56年、郵便局の庁舎増築に伴う発掘調査により、江戸期の石組みの遺構や織豊時代の井戸等のほか、古代の播磨国府系瓦や付属建物跡、塀など古代官衙跡とみられる遺構が検出されて、播磨国衙跡の可能性が強くなった。

## 播磨国総社・射楯兵主神社（総社本町）

社伝によると、延暦6年（787）兵主神を小野江（国立病院付近）に移し、のち射楯神を併祀したという。さらに養和元年（1181）、新任の国司が国内の諸社巡拝を簡略化するため、播磨国内の174座を合祀したという。現在地へ移ったのは、元亀元年（1570）より天正6年または9年（1581）とされ、中世の赤松氏や江戸期の藩主の崇敬が厚かった。榊原忠次寄進の石造大鳥居は県指定、社殿前の銅鐘は市指定、「三ツ山ひな型」は国指定、また、「一ツ山」「三ツ山」の神事は県指定（国選択）となっている。年間神事には、1月13～15日の初えびす祭、2月18、19日の厄神祭、6月30日の輪抜け祭、11月13～16日の例大祭（霜月祭）などがある。



播磨国総社の境内



妙行寺と道祖神



輝政供養塔



切手・木綿会所跡



正法寺



善導寺（左端が笠塔婆）

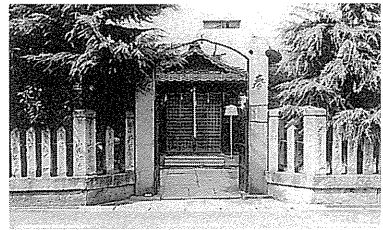
切手、木綿会所跡（綿町） 江戸末期、酒井家の家老河合道臣（のち寸翁）は、藩の財政改革のため、文政3年（1820）山陽道に臨む要衝に切手会所を設け、翌4年には国産会所を併設し、木綿札や木綿切手を発行した。この会所は、明治になってから区務所など公共施設に利用され、その後、民間医院となり戦災で消失した。

正法寺（平野町） 天正9年（1581）別所町佐土より総社西門あたりに移り、輝政の慶長町割で現在地へ移る。浄土宗。境内に慶長18年（1613）正月24日云々と刻まれた池田輝政の供養塔のほか、縄掛突起のある珍しい石棺蓋石、日本回国塔などがある。また、本堂の唐戸は、出羽の庄内酒田（山形県）の豪商本間光丘が、若い頃の修業先であった姫路の豪商馬場了可の13回忌供養に寄進したもの。

善導寺（坂田町） 寛仁元年（1017）誓忍阿闍梨の開基という。もと椰本（東高校付近）にあったので椰寺と称した。享徳2年（1453）華嚴宗から浄土宗に改宗し、輝政の慶長町割により現在地に移った。境内にある笠塔婆は、建武元年（1334）の銘があり、市内では2番目に古いもの。江戸末期の豪商紅粉屋重右衛門の墓がある。本尊の木造薬師如来坐像は市指定。

妙行寺（坂田町） 本覚院日正の開基で慶長11年（1606）の創建という。日蓮宗。境内に小柄な3基の五輪塔があり、いずれも凝灰岩製で、慶長ごろのもの。また花崗岩製の道祖神が祀られている。

神明神社（亀井町） 摂津国玉造（現大阪市）より、大正期（1573～92）に移し祀られたという。祭神は天照大神。もと約1200㎡あった境内は、いま250㎡と狭くなった。戦前は、大阪の堂島天神祭に準じて7月25日に例祭が行われたが、これは近隣の姫路米穀取引所の意向によるものであった。当社の祭りは、とくに仁輪加という即興寸劇が評判であった。戦後、昭和27年ごろより7月15日・16日となり、露店も出て賑やかになる。



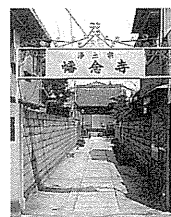
神明神社

幡念寺（北条口2丁目） 三河国吉田（現豊橋市）にあった悟真寺の海牛（寒牛）和尚の開基という。法然上人系の弘願説もあり、浄土宗。輝政の慶長町割のとき現在地を与えられた。享保3年（1718）行營により再興。境内に延命地蔵があり、むかし飢饉のとき、山中より出て人びとに餅を与えたので餅売りの地蔵と尊崇された。昭和初期までは、8月下旬の地蔵まつりは賑やかであった。



赤鹿神社

赤鹿神社（北条口3丁目） 姫路市八代にあった御茶屋屋敷の東北隅に稲荷神社が祀られていたが、池田家が転封のとき姫路城内に移され、明治維新のとき北条口に移されたという。戦災のあと現在地に再移転する。八代にあったとき、土豪の赤鹿氏にちなんで赤鹿神社と称したという。戦前は、米穀取引所が近くにあった関係もあり、市中の有力者の信仰をあつめ、玉垣にもその名残りがみられる。

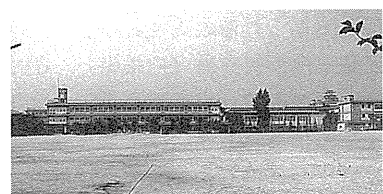


幡念寺



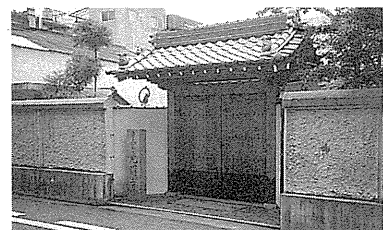
茶町の町名碑

茶町の町名碑（古二階町） 茶町は、江戸初期からの地名で、『播磨府中めぐり』によると、この付近は高尾宿があり家数40ばかり、遊女を置いた料理屋があった。地名もこれに因んでいる。昭和56年、区画事業により廃止され、古二階町、北条口4丁目等に分割されたが、由緒を尊ぶ有志により記念碑が建てられた。



城南小学校（右は白鷺中）

城南小学校（本町） 明治9年（1876）当時の一等地といわれた福中門官有地に、城内、船場、八代、南畝、綿町等にあった9校を統合し、城南小学校と命名、生徒数1,051名で、兵庫県下第1の大規模校であった。旧校の則地校の明治6年を創立年とする。同41年十二所前へ移り、戦災の後、昭和34年いまの地に移転した。同校出身者には歴史家の辻善之助、経済人龍田敬太郎、前衛画家山本敬輔、東大名譽教授結城令聞、神大名譽教授米花稔、工芸家立花江津子等。



光明寺

光明寺と西福寺（魚町） 光明寺は、江戸初期に飾磨津から現在地に移った。浄土宗で開基は然譽。明治18年姫路町と飾東郡の西区務所が置かれた。

西福寺は、天正ごろ総社付近から当地に移る。開基は円譽生西。境内に庚申堂が祀られたので庚申寺ともいわれ、姫路城の裏鬼門になるので厄除け寺ともいわれた。戦災により近隣のいまの地に移り、現在は光明寺が管理している。

中島地蔵（塩町） 大正末期に諸願成就の地蔵尊を地元の佐野治作氏らが祀った。それまではオミイサマを祀っていたという。船場川岸にあったので中島と名づけられ、昭和39年当地に移った。



中島地蔵

長源寺（立町） 男山山麓にあった長彦寺が輝政の慶長町割で当地を与えられた。明治初年に一時無住となり、やがて総社の明王院が移転したが、大正末に再び長源寺が復活し、それまで寺で祭祀した長壁神社と境内を折半して分離した。長壁神社の6月神事には、舞燈籠に走り馬の絵を描き入れ「長源寺の舞燈籠」として知られ、祭礼にも売られていた。

長壁神社（立町） 「ゆかた祭」で親しまれる神社。長壁大神は、光仁帝の息子刑部親王とその娘富姫の2神で、古くから姫山の地主神として歴代城主は祭祀を重んじた。隣接する長源寺に長壁大神の日供所が設けられていたが、大正末に分離して長壁神社となった。戦後、6月の神事は、呉服商組合、観光協会、地元らの協賛でさかんとなり、「ゆかた祭」として今や姫路の代表的なまつりの一つ。

光源寺（十二所前町） 浄土真宗本願寺派、古くは播磨六坊の一つであった。蓮如の弟子浄覚が延徳3年（1491）飾磨区細江に創建したという。慶安元年（1648）下白銀町に移る。戦災で現在地に移ったが、当時は鉄筋のモダン寺として話題を呼んだ。

十二所神社とお菊神社（十二所前町） 祭神は少彦名神。社伝では、延長6年（928）一夜で12茎の蓮草が生じ、神のお告げにより大將軍に社を建て、安元元年（1175）当地に移ったという。城の裏鬼門というので藩政期に移ったという。

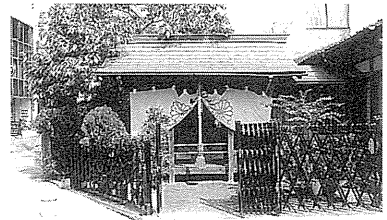
撰社としてお菊神社があり、古くは、三菊大明神として祀られていた。室町期の赤松家臣団の権力争いにまつわる播州皿屋敷の伝説で知られるお菊を祀る。

姫路市役所開庁地（白銀町） 明治22年4月1日（1889）に市制が施行され、8月18日白銀町の生田医院（現中国銀行付近）を借上げて市役所が開庁、家賃は月5円であった。明治30年に北条口の新庁舎に移るまで、周辺は裁判所、姫路駅など新しい都心を形成した。

志士の碑（魚町） 江戸末期、急進的な尊王攘夷活動家の姫路藩士河合惣兵衛（47才）、行動を共にし脱藩した養子河合伝十郎（24才）と江坂栄次郎（23才）ら8名は、元治元年（1864）12月処刑された。大正5年（1916）もと藩の獄舎跡のこの地に記念碑が建てられ、大戦後に一時撤去され、昭和43年復元。

俵町の町名標（西二階町） 江戸初期は大和町と称した。大和出身の人びとが居住したという。慶安元年（1648）松平大和守直基が姫路城主となったので、官職をはばかって俵町と改めた。俵屋という豪商がいたとかいう説もあるが定かではない。昭和59年、区画事業で町名が廃止され、西二階町に編入された。

国道二号線建設碑（本町） 姫路城の南部中濠は埋立てられて国道2号線の一部になっているが、埋門と姫路信用金庫本町支店付近の間は、昭和7年に埋立てられ、当時の近代工法でアスファルト道路が竣工した。この建設記念碑は、もとの位置より約100m東へ移して設置されている。



長壁神社



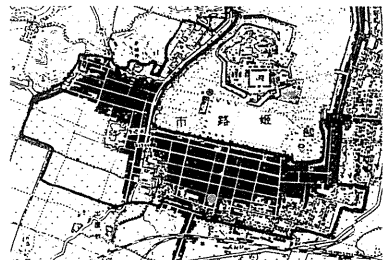
光源寺



十二所神社



お菊神社



明治26年測図 ©市役所  
枰内が当時の城南小学校区

